



大川尻 おおかわじり

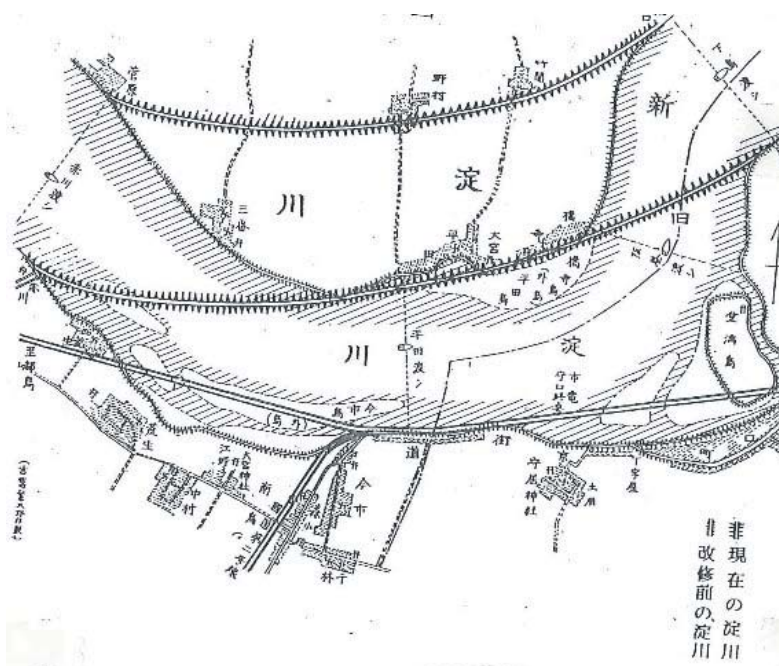
「淀川の汀、中村をいふ、むかし川船にて西海へ越く時は必ず船をここに繋ぐなり。」

光親郷の記に曰く、壽永年中五条大納言國綱郷ここを領し、高倉上皇嚴島行幸の時、行宮を営講すと云々。

(撰津名所図繪)

かくて、御舟をいだして、こち風をおいて下らせ給、さる時に川じりの寺江といふ所につかせ給ふ、國綱の大納言御所つくりて御まうけ心をつくして、御舟ながらに差し入れて、釣殿よりおりさせ給ふ。

(高倉院嚴島御幸記)



近世 淀川洪水の歴史

- ①延寶の仁和寺切
延寶2年6月14日
- ②享保の枚方切
享保20年6月21日
- ③享和の仁和寺點野切
享和2年6月27日
- ④文化の八幡切
文化4年5月5日
- ⑤明治元年の徳庵切
明治元年5月11日
- ⑥明治18年 枚方切
明治18年6月17日
- ⑦明治29年より堤防改修
- ⑧明治43年竣工

<島津>

改修前、淀川図 (旭区政誌 昭和28年 大阪市旭区役所発行より転載)

井路川(どぶ川)

森小路の家の前は井路川でした。

よく竹竿で棒高跳びのまねをし、どぶ川を飛び越えましたが、うまく飛び越えられたら近道が出来たと喜んでいました。…が失敗し、川にはまり母親にしかられました。

しかし、今日のように化学物質に汚染されたりではなく、かえる、青大将等が生息し、イチヂク、ビワの木などもありました。玄関が川に面した家は、各家ごとに木の橋が渡してあり、一号線をひとつ東に入るだけでのどかな場所でした。

昭和24年、今の古市小学校(当時は分校)の東側にある井路川が暗渠工事されているのを見て、早く家の前のどぶ川を埋め立てて欲しいと考えていました。 <中村>



■井路川暗渠後の様子
<現在の森小路2丁目付近/昭和30年頃>
(写真:中村英祐)

井路川に関する詳しい内容は、
地域史「大宮編」をご覧ください。



■井路川の風景
(上写真2点:
「城東区50年のあゆみ」より)
(下:旭区史より)

川の記憶

井路川の名の由来は？ どうして言ったのか？

どこから流れてきたのだろうか？ どちらの方へ流れていったのだろうか？ かつて淀川が上辻霊園のところで水が樋の所を通って、清水千林を通って、ゆうゆうと流れていた道筋がそのまま残っているのがなつかしい。

上辻霊園の所から北清水、貝脇、千林になり左へ曲がって清水小学校の方へ行く。

清水小学校へ通っていた頃、夏は学校から水泳をするために淀川の方へ行った。運河と言われていた川で、整備されていたきれいな川だった。

その後、高速道路が出来ている(江野川といっているのだろうか?)。だんだんと変わってきている。千林小学校は京阪千林のあたりで、人がふえて古市と清水の小学校に分かれる。

うちの父も千林小学校に通っていたそうだ。

淀川がこの墓のところあたりで、平地に流れて河内平野になってゆく。

江戸時代終わり頃”姓”をつけるのにいろいろ考えたらしいが、うちのおじいさんは樋のそばにあった家だから樋口という姓にした。また、もう一軒は樋の上という姓にしている。今もその人々は同じ辺りにいる。

戦時中は、家の座敷の床を上げた地下に防空壕を掘って、空襲のサイレンが鳴ったら、あわてて逃げ込んだものだった。

息子が生まれて間なしだったので、大変だったが、この辺は被害がなかったの、まだましだった。 <上田(信)>